

公益法人 在宅医療助成 勇美記念財団

2018年度（後期）指定公募

「在宅医療推進のための学会等への共催」完了報告書

「日本在宅医療連合学会 第1回地域フォーラム」

申請：医療法人財団老蘇会 静明館診療所

提出年月日：2020年3月1日

1. 実施概要

(1) 大会名

日本在宅医療連合学会 第1回地域フォーラム

(2) 大会テーマ

在宅医療！ゴチャまぜ！DO！サ！

(3) 開催日

日時：2019年9月14日（土）・15日（日）

(4) 会場

札幌市教育文化会館（札幌市中央区北1条西13丁目）

(5) 主催

一般社団法人 日本在宅医療連合学会

(6) 大会長

医療法人財団老蘇会 静明館診療所 大友宣

(7) 事務局

医療法人財団老蘇会

(8) 共催

（公財）在宅医療助成 勇美記念財団、北海道在宅医療推進フォーラム、（一社）全国在宅療養支援診療所連絡会、北海道訪問看護ステーション連絡協議会、札幌市在宅医療協議会、北海道地域医療研究会、日本プライマリ・ケア連合学会 北海道ブロック支部、連絡会の連絡会、医療者・介護者・福祉者のためのケア・カフェ R、飲みこみ安心ネット・札幌、（一社）全国薬剤師・在宅療養支援連絡会、（一社）北海道介護支援専門員協会

(9) 後援

北海道、札幌市、（一社）北海道医師会、（一社）札幌市医師会、（一社）北海道歯科医師会、（一社）札幌歯科医師会、（一社）北海道薬剤師会、（一社）札幌薬剤師会、（一社）北海道病院薬剤師会、（公社）北海道看護協会、（一社）北海道医療ソーシャルワーカー協会、（一社）北海道介護支援専門員協会、（一社）北海道高齢者向け住宅事業者協会、北海道地域包括・在宅介護支援センター協議会、北海道ホームヘルプサービス協議会、（一社）札幌市

介護支援専門員連絡協議会、北海道訪問リハビリテーション連絡会、(一社)北海道歯科衛生士会、(公社)北海道栄養士会、北海道医療新聞社、北海道新聞社

(10) 参加費用

		事前参加	当日
医師・歯科医師・企業	日本在宅医療連合学会会員	8,000 円	10,000 円
	非会員	10,000 円	12,000 円
初期臨床研修医・薬剤師	日本在宅医療連合学会会員	5,000 円	6,000 円
	非会員	6,000 円	7,000 円
上記以外の医療・介護関連職種及び行政の方 (コメディカル/介護専門職)		3,000 円	4,000 円
一般市民		2,000 円	
北海道地域医療研究会のみ参加	北海道地域医療研究会会員	無料	
	非会員	1,000 円	
学生 (大学院生は除く)		1,000 円	
懇親会		7,000 円	

2. フォーラムの参加者等のべ 1,320名

(1) 日本在宅医療連合学会第1回地域フォーラム
参加者合計 950名

- ① 事前参加費を払った参加者 490名
医師(会員)69名、医師(非会員)85名、薬剤師(会員)2名、薬剤師(非会員)52名、コメディカル・行政 257名、一般 13名、学生その他 12名
- ② 当日参加費を払った参加者 258名
医師(会員)14名、医師(非会員)41名、薬剤師(会員)1名、薬剤師(非会員)9名、コメディカル・行政 112名、一般 34名、学生その他 10名
- ③ 演者 112名
- ④ 関わったスタッフ
医療法人財団老蘇会 46名
ボランティアスタッフ 44名

(2) 市民公開講座（第10回北海道在宅医療推進フォーラム）
参加者合計 370名

- ① 一般市民 234名
- ② 医療介護従事者 136名

3. 大会コンセプトと成果

(1) 「在宅医療！」に関連する学会や研究会、イベントなどを集約し「ゴチャ・ませ！」とする

全国でも北海道でも在宅医療、在宅ケア、プライマリ・ケア、地域医療など関連する学会や、研究会、イベントなどがたくさん行われています。今回は在宅医療・在宅ケアに焦点を当てながら、北海道で行われている関連の学会、研究会、イベントなどを集約し地域フォーラムを行います。＜成果＞かなり多くの共催団体と一緒にフォーラムを企画することができた。日本在宅医療連合学会だけでなく、多くのステークホルダーや学会などを巻き込むことができたのは大きな成果であった。今後は共通のプラットフォームを形成していくことが課題である。一方でプログラム数が増えてしまい、講師料や交通費の出費が大きくなった。終始均衡とするために苦労した。

(2) 北海道(DO!)の在宅ケア関係者が一丸となって行う企画とする

北海道の在宅医療・在宅ケア関係者が実行委員となって企画・運営するようにします。様々な職種、様々な地域のアイデアが出てきます。そして、このフォーラムの企画を通して今後の北海道の在宅医療・在宅ケアを推進する素地を作ります。

＜成果＞多くの在宅ケア関係者を巻き込み企画・運営することができた。実行委員には主に札幌の方が多く、広い北海道から集めることは困難であった。企画のアイデアに関しては自信をもって良かったと言える。多くの参加者から楽しかったとの声が聞かれた。地方会組織とする場合にも医師だけでなく、多くの職種を巻き込んでいくことができる。北海道地方会組織づくりが次の課題である。

(3) 学問的探求よりも実践(DO!)を重んじる

在宅医学は特に実践の学問です。どのように在宅医療、在宅ケアを推進し、実践していくかという暗黙知を形式知にして共有します。

＜成果＞地域フォーラムの各企画は実践の知に満たされていた。参加者が持ち帰ることができる企画が多かった。在宅医学という学問へ高めていくことが今後の課題と考える。

(4) 営利企業の宣伝広告活動は最小限(サ!)とする

ランチョンセミナー、製薬会社などの広告掲載はしない予定です。宣伝広告活動は最小限とした学会運営を目指します。

＜成果＞広告宣伝活動は最小限とすることができた。営利企業等が参加しにくいという課題はあるが、自社の宣伝の場にならないようになって

いた。次項とも関連するが、地域フォーラムの収支を均衡させるため、事務局にかなり負担があったのは否めない。

- (5) 学会参加費(サ!)を出来る限り抑え、参加しやすい学会とする
参加費が安ければ参加したい関係多職種や学生は多くいます。無駄を抑えながら、ボランティアをできるだけ活用し、参加費を抑えます。
<成果>医師以外の参加費は抑えることができた。ボランティアの活用は札幌市での多職種連携の成果と思われる。学生の参加は多くなかったが、大学など学生向けの宣伝をすることがあまりできていなかった。

4. 大変だったこと<職員より聞き取り>

- (1) ほぼ当法人の職員による運営であったため未経験のため準備に時間がかかった。
- (2) 会場ごとの演目にあわせた準備計画を作成することに手間がかかった。
- (3) 演者、実行委員と依頼しながら準備をすすめるため思う通りに進まなかった。
- (4) 初日は、総合受付をつくる段階で職員スタッフの準備、ボランティア受付など並行して行う必要があった。集合時間を、コアメンバー→法人スタッフ→ボランティアなどのように順番を決めるとスムーズであった。
- (5) 2日目は前日の経験があったが、スタッフが入場できる時間とイベント開演までの時間が短く、スタッフと来場者はほぼ同時刻に会場入りとなったため、ボランティアスタッフへの打ち合わせが不十分となった。
- (6) 演者の時間制限を超えてしまった演目が複数あった。
- (7) 会場ボランティアの中で参加を控えた方がいた。

5. 感想<職員より聞き取り>

- (1) 想定が不足しコアスタッフに困惑があった。法人職員やボランティアスタッフも困惑が見られたが、それなりに対処していた。
- (2) ボランティアスタッフのみなさんが自主的に動いてくださり大変助かった。
- (3) 職員にはさらに細かい打ち合わせをしておく良かった。
- (4) 非日常的な業務でありその点は楽しく準備できた。

6. 謝辞

当院スタッフの活躍、ボランティアスタッフの貢献、多くの方々からの温かい応援なしには地域フォーラムは行うことができなかった。無事に開催できたことだけで感謝でいっぱいであるが、開催後様々な方から「ドウだべさ、おもしろかった」と言ってもらえて嬉しい限りである。

最後になりましたが、今回のフォーラムの開催にあたり、在宅医療助成 勇美記念財団から貴重な助成をいただきました。大変ありがとうございました。